番号	52	架橋記念碑　　従三位勲一等　武富時敏書		
所在地		伊万里市大川町駒鳴　白木地区		
災害別		昭和２年（１９２７）水害		
目的別		記念碑	建立年	昭和４年５月６日
特記事項				

松浦川沿いの伊万里市大川町駒鳴の白木橋近くに建つ架橋記念碑。碑文によると、かつては飛石伝いに松浦川を渡っていたため、それを不便に思った白木地区住民が橋を架けようと資金や労力を出し合い、昭和２年９月７日に橋脚を築くまでに至ったものの、その夜の洪水で流失したこと、その後の復旧工事から竣功までの苦労などが記されている。

「佐賀県災異誌」によれば、県内では、昭和２年９月７日から雨で、８日に発生した台風が１３日には有明海を横断して熊本県に上陸。県内は高潮をはじめ未曽有の風水害を蒙ったと記されている。

（正面銘板）「抑(そもそも)白木區(く)は今を去る四百年前唐津舊(きゅう)（下のつくりが旧、以下同じ）領主寺澤志摩守廣高の肇(はじ)むる所なり廣高立川村に地を相(そう)して天溜池を築きて水利を起し白木鶴の山野を開拓して田畠を開き今の東松浦郡七山村白木より移民して農業を營ましむるを祖となすと云ふ　此の地北に山を負ひ南に白木鶴の平野を控へ地味肥沃にして頗(すこぶ)る耕作に適せり然れども松浦川區の西部を流れ縣(けん)道との交通を遮断するを以つて區民は僅かに飛石を傳(つた)ひて往來(おうらい)するに過ぎず殊に幼児の通學(つうがく)に困難なるこれを傍観するに忍びざるものあり然れゝば橋梁架設は區民が夢寝にも忘れ能はざりし懸案なりしも戸口僅少にして力之れに副はざるを憂ひ議容易に決せず荏苒(じんぜん)として今に至りしなり然るに精神文明の興隆と

物質文化の 發達 とは交通 機關 の整備を促すこと極めて急にして區民一同の 喩安 を許さざるものあるに至れり此に於てか 敢然 として 萬難 を排し架橋を決議し 頼母子講 を發企して資金と為し昭和二年八月十七日を以て初めて工を起せり　西岸の 橋臺 床堀に着手するや河床は一帯の盤岩にして水又深く甚だ進捗せず九月七日漸くにして 壹 基の橋脚は樹立せられたり然るに何ぞや其の夜洪水の襲ふ所となり其の一基を倒壊流失す區民の驚歎果して如何然れども區民 扼腕 叫びて曰く是れ天の試練也失望すること 勿 れと是れより 勇氣 却つて百倍し結束益固く家を忘れ寝食を 廢 して復舊工事に 當 る斯くて粉骨砕身の 勞 苦は終に酬ひられ昭和三年十一月一日を以て松浦川西岸を貫く 鐵筋混凝土 橋は竣工し之が両袖たる里道百八十間亦完成せり　當區の此の 壯圖 を企つるや世の同情 翕然 として 輯 り縣補助金一千三百六十八 圓 を 甫 め他區及個人寄附金二千三百圓勞役寄附五百五十人に達す 而 して全工に要せし総 經 費金六千五百圓と勞役は実に二千百人余を算せりと云ふ　昭和四年五月六日　柳田米一撰　發起人・會計等氏名（略）」（原文はカタカナ表記）　（台座上段、中段）　「寄附者氏名・金額等（略）」

現在の白木橋　平成５年３月竣工

国土地理院電子国土 Web